



発刊にあたって

「営農改善資料」の発行にあたり一言ご挨拶申し上げます。

現在根室市の1戸当たりの経産牛頭数は54頭であり、全道平均の42頭に比べ大きな規模になっています。乳牛が根室市に導入された当時は頭数も少なく、家族のようにそのしぐさを見守ったものです。しかし頭数が増えてきた今では、いくら機械化されたとはいえ労働時間は変わらず、むしろ仕事は複雑になり高度な技術レベルを求められるようになりました。加えて、経営管理がますます重要になるとともに、家族協定など家族内にもルールが必要とされる時代になっています。集落の人口減少に伴い地域活動の役割も増加していますし、さらには環境問題など新たな問題が生じています。

このような状況のなかでは、牛への配慮がどうしても軽くなり、人間の都合が優先されるようになります。足がすりむけていたり寝起きが不自由であるにもかかわらず、気が付かない、手が回らずそのまま、といったことがしだいに積み重なってきているように思われます。我々酪農家は、牛から乳を生産することが仕事でありますから、まず牛に十分な気配りをしなくてはならないのです。牛が悲鳴を上げると、経営も悲鳴を上げます。

本資料は、繋ぎ牛舎での乳牛の快適性について、多くの事例を盛り込みながら、施設の改善方法が具体的に整理されています。ぜひ参考にされて、牛も人も快適に仕事ができる環境を整えて頂きたいと思えます。

最後に、本資料作成に当たり多大な尽力をいただきました南根室地区農業改良普及センターおよび関係機関の皆様、そして作成にご協力を頂きました生産者の方々にお礼を申し上げます。

平成11年2月

根室市営農技術普及協議会

会長 枳 穀 勝 久



監修にあたって

農業も時代の変化により従来どうりの感覚で営農活動をすることは困難な状況にあります。

WTO交渉を目前にし、新農業基本法の調査会が、新農政展開の基軸に「国内生産を基本とする食糧安保」、「農業、農村の多面的機能の発揮」、「環境保全型農法への転換」等を打ち出したことは、我が国最大の食糧基地の本道にとっては心強いものを感じとることができます。

しかし、現実には、『何人いるのか20代、農業に見切りをつけようとしている30代、四苦八苦の40代、「農家を継げ」と子供に言えない50代、あきらめと将来不安の60、70代・・・』と評する人もいます。

一方、ある若者からは

『～中略～酪農は微小ながら前進しています。酪農を取り巻く環境をもっと風通しの良い、効率的なものにすることによってまだまだ酪農家は軽々と歩けるはずです。そして積極的な解決策としては技術革新があります。酪農家はいつも新しい技術をちょっとだけ導入しては失敗することの繰り返しでした。なぜうまくいかなかったのか十分に検証することなく、技術改良などいらんと言わんばかりです。

技術をないがしろにして生き残った産業など今までにありません。しかし逆に考えれば、根本的な技術の改良に取り組んでいない今でさえ何とかやっているのなら、本気で飼養管理の改良に取り組むことによって、まだまだ躍進できる可能性が酪農にはあるのではないのでしょうか』という意見も出ています。

この若者の発言は私共を多に奮起させてくれるものです。

本資料は乳牛の快適性という点に視点を置いて、写真や図をたくさん使い具体的な内容になりました。理論が先走りすることなく、観察、調査、農家の方々との相談などを行い、改善の成果等もたくさん掲載することができました。

この機会に、どうしてあげれば健康な乳牛が効率よく牛乳を生産してくれて、どうすれば労働環境が改善できるのか考えてみてはいかがでしょうか。

この資料が各酪農家の家族全員の皆さんや関係者の方々に愛されるハンドブックとなることを願って止みません。

平成11年2月

南根室地区農業改良普及センター

所長 中家靖夫